

子どもたちの思いを聴いて、届けたい人に届ける 子どもアドボカシーを知っていますか。

三重県教育委員会では、子どもの権利およびアドボカシーを学ぶための動画教材「(児童用) その思い、閉じ込めないで」「(生徒用) 私には伝えたい思いがある」を制作し、三重県HPに掲載しました。

お子さまと一緒に動画教材をご覧ください、必要に応じて学校やスクールカウンセラー、独立アドボケイトにご相談いただきますようお願いいたします。



子どもアドボカシーとは、子どもの思いを聴いて、実現するように支援すること。

アドボカシーとは、自分の思いなどをうまく伝えられない人たちの意志や意見を聴き、思いをくみ取って周囲に働きかける活動のことを言います。

その中でも、子どもの思いをしっかりと聴いて、届けたい人にその思いを届け、気持ちや意見の実現のために支援するのが子どもアドボカシーです。



子どもアドボカシーは、学校や児童相談所などで求められています。

いじめや児童虐待を受けた子どもたちの思いが大人に届かなかったことで、命を失ってしまう痛ましい事件が起きています。このことから、子どもが誰にも相談できないまま、思いを自分の中に閉じ込めてしまうのではなく、周囲の大人が思いを聴いて、それを実現することの重要性が認識されるようになりました。

2022年に児童福祉法が改正されて、児童相談所等に子どもの声を聴くアドボケイト等の意見表明支援員を置くことが努力目標と位置づけられました。学校においても、子どもが自分の思いを自由に表明し、それが尊重されて実現できるように、教職員やスクールカウンセラー、独立アドボケイト(子どもアドボカシーの専門家)が支援していきます。

「子どもの権利条約」の理念の実現を推進する子どもアドボカシー。

子どもアドボカシーの土台になっているのが、世界中の子どもたちの安心を守る「子どもの権利条約」です。世界の196の国や地域で守られているこの条約には、大事な「4つの原則」があります。

① 差別の禁止

すべての子どもは、平等に大切にされる権利を持っている。

② 子どもの最善の利益

子どもに関する決まりごとや支援について考えるとき、「その子にとって何が一番良いか」を第一に考える。

③ 生命・生存・発達に対する権利

すべての子どもは、命を守られながら、その子らしく育ち、成長する権利がある。

④ 子どもの意見の尊重

子どもは自分のことについて自由に思いを表すことができ、大人はそれを真剣に受けとめ、一緒に考えて行動する。

もっと知りたいあなたへ。

Q 子どもが、自分の思いを直接伝えられないときは、誰に伝えたらいいの？

A 『自分の気持ちや意見を、自ら相手に伝えること』をセルフアドボカシーといいます。セルフアドボカシーが難しいときは、多くの人が子どもを支えます。子どもの思いを聴き、実現をめざして支える「子どもアドボカシー」の担い手は4つに分類されます。

子どもの意見を尊重する「子どもアドボカシー」の担い手

フォーマルアドボカシー

学校の先生やスクールカウンセラー、部活動の指導者などが子どもを支援すること。

ピアアドボカシー

友だちや同じ経験をした人たちなどが、子どもに助言したり、大人につないだりすること。

インフォーマルアドボカシー

お母さんやお父さん、親戚や近所の親しい人などが子どもをサポートすること。

独立アドボカシー

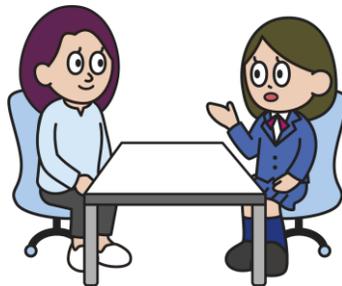
子どもの立場に立って思いや意見を聴き、子どもが望む方法で必要な支援につなぐこと。

セルフアドボカシー

自分の気持ちや意見を、自ら相手に伝えること。

Q アドボカシーの専門家「独立アドボケイト」とは、どのような人なの？

- A**
- 相談者の立場に立って、気持ちや意見を丁寧に聴き、実現できるように支援する人で、アドボカシーを実践する専門家を「独立アドボケイト」と言います。「独立」とは、学校や保護者など誰とも関わりのない（利害関係のない）人という意味です。
 - 「独立アドボケイト」は、相談者の思いを聴き、相談者がどうしたいのかを大切にしながら、どのように伝えれば良いかを一緒に考えます。相談者の希望に沿って伝えたい人に代弁することもあります。
 - 相談者から聴いたことは秘密にします。
 - 相談者自身やまわりの人の命に関わったり、心やからだを傷つけたりしていると判断したら、聴いた内容を必要な人に話すことがあります。その場合は、相談者にこのことを伝えます。



「独立アドボケイト」は、教職員やスクールカウンセラーなどの学校関係者以外で、子どもが安心して悩みを相談できる大人として、選択肢の一つとなり得ます。詳しく知りたい方は、学校までご相談ください。